

平成 22 年 4 月 26 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520151

研究課題名 (和文) 日本近代文学館所蔵芥川龍之介文庫和漢書の書き込みに関する文献学的研究

研究課題名 (英文) A Philological Study on Notes in Japanese and Chinese Books of Akutagwa Ryunosuke Library in the Museum of Modern Japanese Literature

研究代表者

須田 千里 (SUDA CHISATO)

京都大学・大学院人間・環境学研究科・教授

研究者番号：60216471

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：近代文学、芥川龍之介、日本近代文学館、和漢書、書き込み

1. 研究計画の概要

日本近代文学館に所蔵される芥川龍之介文庫は、芥川の手沢本和漢書 465 点、1822 冊という大量のコレクションである。これに逐一あたって書き込みを調査、紹介するとともに、これを分析し、芥川文学の材源を考察する。

2. 研究の進捗状況

(1) これまでの 3 年間で、芥川龍之介文庫和漢書 465 点すべてに当たり、書き込み調査を完了した。以上の調査に基づいて、主な書き込みの紹介と、それに関する考察を行い、論文 3 点を発表した (下記 5. 参照)。

(2) まず、論文『『今昔物語集』の内と外——『羅生門』『偷盗』をめぐって』で、芥川が『偷盗』(大正 6 年) で使用した平安時代の京都の地図が、芥川文庫所蔵「中古京師内外地図」(明治 34 年) であることを明らかにした。平安時代を舞台とした本作品に、元享元年 (1321) 開基の立本寺が出てくる謎がこれで解決した。

(3) 論文「芥川龍之介文庫和漢書の書き込みについて」では、芥川が読了日を記した『虞初新志』以下 8 点を紹介した上で、以下の 14 点に見られる芥川の書き込みを翻刻紹介した。すなわち、『改正 新編漢文教科書』『虞初新志』『浙西六家詩鈔』『唐詩絶句』『蘇文忠公詩集批粹』『精刊唐宋千家聯珠詩格』『旧小説』『青邱高季迪先生絶句集』『絵図情史』『樊川詩集』『芭蕉全集』『平田篤胤之哲学』『甌北詩選』『寒山詩闡提記聞』である。さらに、『春服』訂正版の実態、芥川の記した圈点や、芥川への献呈本に記された他作家の献辞について具体的に紹介し、考察した。そ

の他、『旧小説』所収『簷曝雜記』『独秀山黒猿』が、『文芸雑話 饒舌』で芥川が紹介する「通臂猿」の話の出所であることを明らかにした。また、「旧幕府御定書」と墨書された仮綴の本(叢書『百万塔』を合綴したもの)に収録された「近代公実庵秘録」が「忠義」(大正六年)の典拠であることを確認した。

(4) 論文「芥川旧蔵『芭蕉全集』と「芭蕉雜記」」では、『芭蕉全集』(大正 10 年)の「連句集」「遺語集」に見られる○印やカギカッコなどを紹介し、これらが、芥川が「芭蕉雜記」(大正 12~13 年)「続芭蕉雜記」(昭和 2 年)執筆に当たって参照し、作品中に引用するための心覚えの印であることを具体的に跡づけた。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

前項で述べたように、芥川龍之介文庫和漢書すべてに当たり、書き込み調査を完了、その主な書き込みについて紹介し、若干の考察を加えたから。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 最終年度である平成 22 年は、芥川文庫蔵本一冊ごとに作成した文献学的調査情報を整理し、基本的な書誌情報、書き込みの有無、頁の折れの有無などを注記する。

(2) これまで発表した論文を中心として、芥川の書き込みをすべて紹介し、考察を加える。

(3) これまでの知見に基づき、芥川文庫蔵本が芥川作品の材源となっている例を明らかにし、考察を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① 須田千里、「芥川旧蔵『芭蕉全集』と「芭蕉雑記」」、『国文学 解釈と鑑賞』、第 75 卷 2 号、65～72 頁、2010 年、査読有
- ② 須田千里、「芥川龍之介文庫和漢書の書き込みについて」、『日本近代文学館年誌 資料探索』、第 5 号、27～44 頁、2009 年、査読有
- ③ 須田千里、「『今昔物語集』の内と外——『羅生門』『偷盗』をめぐって」、『国文学 解釈と鑑賞』、第 72 卷 9 号、35～42 頁、2007 年、査読有